

イマをトキメク くれびと KURE-BITO

今まさに輝きを増している人にスポットをあて、さまざまな場面で活躍する呉にゆかりのある人、その名も「くれびと」を紹介します！

バレリーナ

こうら
小浦 にこ さん

【プロフィール】

20歳。川尻地区出身。3歳から古江バレエスクールでバレエを始める。15歳で世界屈指のバレエスクール「ロシア国立ワグノワバレエアカデミー」に入学。昨年7月、首席で卒業。その後は、「ベラルーシ国立ボリショイ劇場バレエ団」を経て、「ロシア国立サマーラ歌劇場バレエ団」に入団。プロのバレリーナとして、活躍の場を広げている。マイブームは読書で、最近では哲学的な本がお気に入り。



インタビュー
動画はこちら



バレエを始めたきっかけと、海外での挑戦の理由は？

姿勢を良くするためにと母の勧めで始めました。私自身も、表情や体の動きだけで、さまざまな感情や物語を表現できるバレエに夢中になり、自然と毎日レッスンに通うようになりました。ロシアのワグノワバレエアカデミーへの入学を志したのは、幼い頃からの憧れと、厳しい世界で自分を試したいという思いからでした。しかし、入学の壁は高く、私も初めてのオーディションでは、最終的に合格することができませんでした。諦めきれない私は、すぐに気持ちを切り替えて、練習に没頭。翌年のオーディションで、念願の合格を手にすることができました。そして昨年、そのアカデミーの卒業試験でスカウトされ、プロのバレリーナになることができたんです。

これまでで印象に残っている舞台は？

昨年演じた「くるみ割り人形」の舞台です。プロになって初めての舞台で、主人公のマーシャ役を演じました。カーテンコールでのお客さんの拍手と笑顔は今も忘れられません。頑張ってきて本当によかったです。

地元・川尻の好きなところは？

川尻といえば、やっぱり野呂山や瀬戸内海に代表される自然。日本に帰って来た時は、呉の山や海の風景に癒やされています。また、地域の人も温かく、昔から私の挑戦を応援してくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。

呉のみなさんにメッセージをどうぞ。

バレエでは、プリエという膝を曲げるきつい動作があるんですが、プリエをすればその分高く跳ぶことができます。私はつらいことがあれば、今は“プリエの時期”だと自分に言い聞かせて乗り越えてきました。みなさんも、悩んだりくじけそうになったりした時は、より高く跳ぶための“プリエの時期”だと思って乗り越えてほしいです。私も「観た人の心に残るバレリーナ」を目指して努力を続けていきますので、これからも応援よろしくお願いします。また、7/30(水)には呉信用金庫ホールで、古江バレエスクール主催の公演が行われます。誰もが楽しめる公演で私も出演しますので、ぜひお越しください。(詳しくは31P)



▲バレリーナとして活躍する小浦さん